



桃見台小学校 学校だより

桃風

令和3年度

No. 24

発行日 R4. 3. 8 (火)

発行責任者 校長 鈴木 哲明

これからの学校教育は？

子どもたちが、未来社会を切り拓いていくための資質・能力を確実に身につけるため、子どもたちに求められている資質・能力を社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視しています。知識及び技能の習得と思考力・判断力・表現力育成のバランスを重視するこれまでの学校教育を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成することが大切だと考えます。本校においても「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、授業の改善に取り組んでいます。

<主体的とは？>

自分からやろうとすること。学習の見通しをもち、学習を振り返ることができること。

学習に対して、「何のためにするのか。」「どのように活動すればよいのか。」「それによってどんなことができるようになるのか。」「といった学習の方法や見通しを持って取り組むことが大切だと思います。

<対話的とは？>

他者（自分以外のだれか）の考えを取り込みながら、自分の考えを出すこと。

「こんなことを見つけた」「私はこう思う」「あなたの考えはこうです」といった、それぞれの感じ方や考え方を伝え合うことが大切です。子どもたち同士の対話により、多様性や関連性をさらに深める視点を手に入れることができます。

<深い学びとは？>

さらに「なぜ」「どうやって」「つぎにこうしよう」といった学びをつなげること。

与えられた物をこなしたり、見かけで判断したりすることなく、物事の本質に迫り、自分が納得するまで追究し、学びの継続性を大切にすることが求められています。

「箏(こと) 教室」

2月28日に、講師の先生をお招きし、4年生を対象に行われました。一人一面の箏が用意され、実際に触れながら箏の素晴らしさを体験することができました。「琴」と書かれることがありますが、「箏」の表記にすることや、「龍頭」「龍尾」「龍角」等、中国で最高の生き物とされる龍の姿になぞられる大切な楽器であることなどを教えていただきました。また、弾き方・姿勢等、長い歴の中で変化しながら、現代風にアレンジして多くの方に親しまれていることを知りました。実際の演奏では、13本の弦（絃）を上手に使い箏の音色の美しさを実感することができました。

本年度は、感染症対策のために、本来の学校行事ができないことがありましたが、その中でも貴重な体験学習ができて本当によかったと思います。今後とも、本物に触れる経験を大切にして、物事の本質を理解する深い学びにつなげていきたいと思っています。

